

平成19年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度総括）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学力の充実・向上 2 希望進路の実現 3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成	(1)学校経営 【成果】・土曜補習の実施(年間20回) ・地域との連携 ・部活動、生徒会活動の活性化(奉仕活動の実践その他) ・小中との連携 ・防災訓練、施設設備点検の実施 【課題】・進路補習、授業、集中学習会の体系化 ・服装指導の充実 ・老朽化施設の改善 ・舎監1名による寮の管理 ・中学校との連携の充実 ・広報活動の充実 ・学校評議員会の活用 (2)学校教育 【成果】・生徒の怪我、病気、問題行動への組織的対応 ・管理職、教職員間相互の緊密な連携 ・シラバスの充実 【課題】 ・進路指導計画の体系化 ・府立高校実力テストのより有効な分析と活用 ・研究授業の充実 (3)職員の管理・育成 【成果】・部長会による調整 ・本校の課題を地域の課題として理解してもらった ・研修、教職員評価による教員の意識改革 ・衛生委員会の定期開催(年4回) 【課題】・部長会の議論の活発化 ・地域の教育保障 ・生徒による授業評価の活用 ・情報管理に関する校内マニュアル作成 ・教職員の健康管理、業務分担の適正化	1 学力充実に向上 (1)研究授業・公開授業の実施 (2)シラバスに基づく計画的な学習指導 (3)自主的な学習習慣を確立する指導の工夫 2 潜在能力を引き出す積極的な進路指導 (1)土曜補習の実施、活用 (2)進路補習の計画的な実施 (3)各学年ごとの成績と府高実力テストの個人別データを活用した進路指導体制の強化。 3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成 (1)特に学区外からは明確な目的意識を持った生徒を入学させる。 (2)全教職員が共通理解・認識をもった学校運営の実施 (3)教職員の合意形成の工夫改善と、生徒と接する時間の確保 (4)特色ある教育課程や部活動の推進 (5)積極的な広報活動により、中学生及び地域の人々の本校教育活動への理解を一層深める。 4 教職員の健康管理 (1)勤務時間を適正にし、教職員と家族の心身の健康を保持する。

「学校経営計画」に基づく学校運営や教育活動の実施状況を、自ら点検・評価し、学校教育の充実と改善に生かすことにより、教育の水準の向上と教育目標の達成を図ることを目的としています。また、学校評価の結果を積極的に公表し、意見を求めることによって、学校の経営責任を明確にし、信頼される学校づくりを推進しています。実施状況、達成状況を具体的に把握し評価の客観性を高めるため、評価は4段階の評価を行っています。併せて成果・課題も記載いたしました。

評価 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

分掌	評価領域	重点目標	評価	成果と課題
分掌	組織・運営	学校教育目標の具現化	B	学校の教育目標と具体的な行動計画との関連づけがやや不十分であったが、様々な取組を実施することで当初の目的と到達目標に近づけることができた。 各部長を中心とした各部の連携が確立しつつある。 広報活動を幅広く積極的に行い、小・中学校との連携や地域社会にも成果が上がりつつあるが、更に小・中学校との連携のなかで教科間の連携を綿密にする必要がある。 研修については、分掌内及び分掌間の連携を図り、研修会を実施し、学校としての教育力の向上に努めることができた。また、研究授業、公開授業の開催については時期、参加体制等の検討が必要である。
		連携を重視した組織体制の確立	B	
	家庭・地域との連携	家庭・地域社会との連携	B	
	研修・研究活動	研修・研究による指導力向上	B	
総務部	人権教育	生徒の進路や生き方と関連させ、人権意識の高揚を図り、人権問題に対する正しい理解、認識の基礎を養う	B	人権学習を例年通り実施し、人権意識の向上は図れたが、人権学習の取組方法に課題が残っている。
	PTA等渉外関係	本校の将来展望を見据え、家庭、地域、各関連機関と連携し、適正なPTA運営を図る	A	学校評価では、PTA活動が全会員に理解されていない状況がある。とされるが、一方役員レベルでのPTA活動への評価は高い。役員段階での運営は従来と同様に良好な運営を進めることが出来た。小・中との連携について、接触を試みたが単発事業での参加依頼も十分に事前調査をし、出来ることなら年度当初に呼びかける必要がある。
	広報活動	広報活動の充実を図る	A	従来の広報をベースにし、視覚に訴える広報を目指して取り組んだ。特に全戸配布を行ったパンフは生徒の活動内容と進路実績をミックスし視覚に訴えるものが発行できた。昨年度より貸出冊数が増えた。また今までは全く利用していなかった生徒の中に今年度になってよく利用するようになった生徒がたくさんいた。文化祭企画図書館クイズ大会や七夕短冊書きなど新しいイベントを行うことで普段図書館にこない生徒にも足を向けさせることができた。
	図書館管理等	図書館利用の推進	A	

教務部	教育課程	特色ある教育課程の編成	B	B	教育課程の一部で、教科から求められている単位数を確保できなかった。 シラバスを年度当初に生徒一人一人に配布できたが、その後の活用方法を更に検討していく必要がある。 クラスを特定した教科担当者会議を開いたり、成績不振の生徒を教務部として指導したが、更にきめ細かな指導が必要である。 体験セミナー、中高連携の教科別研究会などを実施し、内容的には概ね好評であった。しかし、日程も含めて準備等について総務部と連携しながら取り組んでいきたい。
	教科指導	シラバスにより科目ごとの計画を明確にし、生徒の学習習慣を確立させる	B		
	広報活動	選ばれる学校を目指し、本校の特色を積極的にアピールする	B		
進路指導部	進路指導	生徒の目的意識を高め、明確にさせていくための計画的・系統的な指導の確立	B	B	各学年と連携し、進路指導目標及び計画にそって、その具体化に努めることができた。 進路学習及び進路説明会等の系統化とその内容の充実を図ることができたが、1学期の説明会をもう少し整理したい。 土曜日・放課後・休業中等の計画的・継続的な進路補習を進めることができた。 模擬試験、資格・検定試験等の受験を勧め、進路選択能力をつけさせることができた。 進路情報の収集・整理に努め、日常的な進路相談活動の充実を図ることができた。
		主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	B		
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる	A	B	毎日の登校指導を実施し、定期的な指導により、遅刻しなくなった生徒が多数いた。  加入をうながす指導が不十分な部分があり、加入率が低下した。  クラス役員と生徒会との連携を密にしながら行事を実施していくことに重点をおき指導し、一定の成果は得られた。  残念ながら自転車事故が2件発生し、すぐにSHRでの担任指導と掲示文により再発防止に取り組んだ。 地域からの自転車通学マナーについての苦情も毎年のようにあり、今後重点的に指導する必要があると感じた。
	部活動	部活動加入の奨励と活性化	B		
	生徒会活動	生徒会活動の活性化 ボランティア活動の推進	B		
	安全指導	交通安全指導の強化 不審者等への対応強化 校内の安全確保	B		
第一学年部	学習指導	学習習慣の養成と学習に対する基本姿勢の確立	B	B	毎日の予習復習の必要性について指導はしているが、なかなか家庭学習に結びついていない現状がある。入学当初人間関係に悩む生徒がいたが、徐々に改善の方向に向かっている。服装・頭髪・遅刻については改善傾向にある。部活動加入率が例年に比べ低調(79%)である。部活動をしていない生徒や辞めた生徒で放課後の時間を無駄に過ごす生徒が見られるので、今後も指導を要する。具体的な進路目標を立てられない生徒がいるので、自分の特性を知り進路意識を高める取組を行い徐々に高まっている。
	生活指導	基本的な生活習慣の確立	B		
	進路指導	三年間を見通した計画づくりと指導の充実	B		
第二学年部	学習指導	学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る	B	B	進路実現に向けて努力を始めた生徒も増えてきたが、いまだ具体的な目標をもてずに学習習慣が定着せず、学習意欲に乏しい生徒もいる。引き続き進路学習やキャリア教育の必要性を感じる。 学園祭や修学旅行を通じて生徒個々のレベルでは自覚ある行動をとれるようになってきた。その一方で、学級集団や学校集団のレベルではリーダー性が十分に育っておらず、積極的に欠ける面がある。次年度には最高学年となるので、学校全体を引っ張っていく気概をもった活気ある集団となるよう指導を継続したい。
	生活指導	学校生活において中心的な役割を果たせるよう自覚を促す	B		
	進路指導	進路実現に向けての具体的方途を描かせる	B		
第三学年部	学習指導	進路実現に繋がる授業を中心に据えた学習姿勢をつくる	A	B	進路実現に関しては、国公立大学の推薦入試で10名の合格者が出るなど順調であった。一般入試に臨む者等、未だ残っているが、目標達成に近づきつつある。その他、温暖化ストップの取り組みとして、3年リサーチ科の生徒が中心となり、その全国大会で最優秀賞を受賞するという快挙に貢献した。卒業まで3年生の自覚と北桑田高校の生徒であるというプライドを持った行動がとれるよう指導していきたい。
	生活指導	最上級生として自覚を持った生活態度を確立し、率先して行動できる力をつけさせる	B		
	進路指導	希望進路を切り開き、全員達成させる	B		
保健部	健康安全管理	保健管理、健康教育を充実し、生涯にわたる健康づくりを目指す	A	B	年度当初の健康診断をはじめ、学年への保健学習や救命講習会を予定どおり実施し、一定の成果を得た。 定期的に、「保健だより」を発行することにより、保健部の取り組みへの理解と、協力を得る努力を行った。  平常の清掃活動や行事毎の大掃除など、ある程度の成果を得られたが、美化委員会活動や生徒会を通じて、生徒からの積極的な行動を生み出すことができなかった。
	学習環境整備	清掃美化に努め、良好な学習環境を確立する。	B		
農場部	農場管理	農場収入と圃場の計画的な運営	A	A	農場収入の年間目標に何とか今年も届く目処がついた。注文数、注文単価が減少する中注文獲得に向けた地道な努力が実った。演習林の作業道開設も鴨瀬で230m、原第1で210m延長され雪害木の処理と間伐が一気に進んだ。農業クラブの各種大会では入賞を連発、進路指導においても第1志望に28名全員が合格した取り組みは特筆されるべき内容である。
	専門学科教育	進路指導部との連携と、誇りの持てる専門教科指導	A		
寮務部	寮運営	愛情と規律のある寮運営を図る	A	A	最近にない寮生が入りスタートした。やはり、入寮直後から課題が表面化し指導を繰り返し行った。また、異性寮に侵入するケースや自傷行為など危機的な状況に陥ったが、迅速な対応と指導を繰り返し大過現在なく現在に至っている。 老朽化による施設設備の改善を早急に改善する必要がある。(立て替え案検討)

事務部	学校財政	特色ある学校づくりを推進するため機動的、積極的な財政運営に努める	B	B	総務部を中心とした広報活動等への支援や中国植林研修、留学生受入等の特殊な経費について適正に執行し、円滑な事業運営に貢献した。施設設備では、体育館床改修や下水道接続工事が本庁執行で行われたことにより森林リサーチ科棟を中心として安全で快適な施設設備の充実ができた。また、独自財源による舗装工事を行うことができた。夏には大規模な漏水が発生したが、緊急対応で早期に復旧させることができた。文書・情報管理においては、通常の管理の域を出ず、特段の取組はできなかった。
	施設設備管理	安全で快適な施設設備の充実を図る	A		
	文書・情報管理	個人情報保護の観点から、文書やデジタル情報の管理を適切に行う	C		
国語	教科指導	言語を媒介にした思考力を身に付け、文章読解力、表現力を向上させる	B	B	小テスト・課題などを通して基礎学力の徹底を図るとともに、低学力層の生徒の学力底上げをねらいとして古文・漢文の基礎知識を段階設定し、各自の課題を明らかにする取り組みを始めた。漢字検定の受検者は増加したが、合格率は変わらず、効果的な学習を今後考えていきたい。適宜投げ込み教材を利用し、視野を広げ、思考力を養った。表現力育成については個別指導によるところが大きい。
社会	教科指導	計画的・系統的・効率的な教科指導	C	C	年間計画に従い、各学年に応じた高校生に必要な基礎学力の向上をめざして教科指導に取り組んだが、特に第1学年では基本的な学習習慣が身につけていない生徒が多く、指導上の工夫が必要である。このため小テストを実施したり、課題提出を求めるなどして、学力向上・学習習慣の定着に取り組んできた。また3年生の中にも高校卒業にふさわしい学力が身に付いたかどうかが疑わしい生徒もおり、補充指導などを通して基礎学力の定着に取り組んできた。
		基礎学力と実践力の向上	C		
数学	教科指導	基礎・基本の定着を図り、学習習慣の確立を目指す。	A	A	第1学年のⅠ・Ⅱ類混合で展開している習熟度別講座編成については検討を要する。日常的に課題を提示しているが、期限通り提出できない生徒が増えつつあり指導を必要とする。各学年とも平常及び休業中に進学補習を実施しているが、部活動との関係もあり参加生徒が10名程度と少ない。
		応用力の伸張を図り、進路希望実現に向けた学力を身に付けさせる	A		
理科	教科指導	自然に対する関心を高め、観察・実験などを通じて科学的に探求する意欲と態度を育てる	B	B	自然の事物や現象への理解を深めるため、実験・観察・実習の機会を増やすよう努めた。今後でも増やす努力が必要である。小テスト、課題、レポート等を通して学習内容の定着を図った。個々の生徒の理解度に応じて、補習などの手立てを講じた。土曜補習に2年化学を実施した。3年向けの進学補習は平日放課後及び長期休業中に実施した。
保健体育	教科指導	健康安全に留意した指導	A	B	健康の保持増進をベースに、安全に活動することを重視して取り組んだ。課外活動での負傷についても、体育理論を通して理解を深めさせることによって少なしていく必要がある。全体的には教師の指導に従い、主体的に運動技術を獲得しようとしている。講座によっては生徒が互いに協力して運動技術を高め合おうとする姿が見られる。今後それぞれの種目の中で、体力作りをしていくような知識を与え、課外活動においても、生徒が安全に留意しながら、体力や技術を主体的に獲得していけるよう支援したい。
		主体的で意欲的な授業態度の育成	B		
芸術	教科指導	教科指導の工夫	B	B	教材の配置の工夫や精選を行うことにより、指導計画の洗練をはかることができた。授業においては、机間巡視を重視し、個々の生徒と人間関係を作る働きかけを行った。その結果、造形活動の幅広さや面白さに気づかせることができた。
		施設・設備の活用	B		
英語	教科指導	教科指導	B	B	日々の学習の定着を図るため、授業の中味の充実を努めた。小テスト等を習慣化するなど基礎的な学力の定着を図ることができた。土曜日や放課後・長期休業中等を活用した補習に積極的に取り組んだ。英語検定等の受検を奨励した。今後さらに働きかけたい。AETと連携して、個々の生徒の英作文指導や、英検二次対策等にも取り組んだ。
		コミュニケーション能力の向上を図る	B		
家庭	教科指導	生活を主体的に創造する力をもった「生活者」を育成する	B	B	「家庭基礎」では、自分自身の家庭生活を振り返ったり、自分の将来の生活を想像したりしながら、生活者として身につけておくべき知識や技術について学び、積極的に実生活に役立てられるような内容を取り扱った。全ての分野を学習するのは時間的に無理があるので、「人の一生」を軸に内容を精選し、ポイントを絞って学習できるよう工夫していく必要がある。
農業	教科指導	進路実現に役立つ職業教育の充実を図る	A	A	京都大学との高大連携によるj-pod建築、それに関わる研究実践発表、京都府立大学の講師によるなら枯れ病の最前線の研究講演。府林務課、府森連との共同事業の高性能林業機械と作業道の開設等学校内外との連携による高度な事業の展開で生徒のやる気や意欲を引き出した。また中国研修での取り組みや、普段の高校生活をj-podを通して、誇りを持って自己発現し進路開拓していく生徒と関わり改めて専門教育に可能性を感じた1年であった。今後、ますます教育の中で職業観や労働観の育成が注目されると思われるが、4年制大学、専門学校、就職、公務員等多様な進路希望に対応できる森林リサーチ科でありたい。林業で学ぶ森林リサーチ科！
		技術を高め、知識との一体化を図る	B		
情報	教科指導	ICT活用能力をはぐくむ基本技術の習得	B	B	情報A・Cでは、多様なソフトを活用し、情報活用能力を引き出す授業ができた。情報処理では、複雑な関数も理解する生徒が増えてきており、レベル差をフォローできる体制作りが必要である。資格取得に対する啓発活動をして、校内での試験実施を行ったが、昨年に比べて受験数が減っている。多種多様な情報に関する資格に対して、校内で指導するには限界がある。今後、情報の指導体制について検討する必要がある。
		進路に結びつく情報活用能力を育成	B		
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の少子化に対応する学校像について、プロジェクト会議に示す具体案を検討するが、まだ収束していないので、さらに綿密な分析と情報収集に基づき具体的な行動計画を策定する必要がある。</li> <li>・広報活動について、内容は高い評価をもらっているが、地域や保護者への浸透が不十分であり配布方法など工夫が必要である。</li> <li>・公開授業や授業評価など様々な企画を行ったが、明確な目標と各企画間の系統性、次への展開に工夫が必要である。</li> <li>・進路指導についてはさらに系統性を高めるとともに府立高実力テスト等のデータを活用した指導をさらに進めていくことが求められる。</li> <li>・生徒の生活状況は良好であり、部活動・生徒会活動も活発である。さらにリーダー意識の高揚に取組む必要がある。</li> <li>・学習については、小・中・高間の連携、家庭学習の定着が課題である。</li> <li>・専門学科は、農場経営、学習指導、進路指導面において成果あげ、環境省主催「ストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会」においては最優秀賞を受賞した。</li> </ul>				